



No. 789 2019

2019年9月1日発行 (毎月1日発行)
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円 (外税) (送料62円)
発行/公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
TEL : 03-5367-6640 FAX : 03-5367-6641
URL : <http://www.ymcajapan.org/>
発行人/神崎 清一 編集人/山根 一毅
印刷/あかつき印刷株式会社



聴こう、ユースの声



みつかる。
つながる。
よくなっていく。
YMCA

YMCA175 (ロンドン) で二井谷さんのワークショップに参加した世界のユースたち

OPINION

「できるかもしれないからやる」 核兵器のない世界を目指して 二井谷 葉 (上智大学総合人間科学部看護学科3年)

「地球地図のような中を生き延び、今日まで生きてきた。もう二度と誰にも自分と同じ苦しみを味わってほしくない。どうか世界の人びとと協力して核兵器をなくしてほしい」

震えながら、涙を流しながら、しぼり出すように、被爆者から語られた言葉。その思いを受け継ぎ、国境や世代を超えて語り広げること、平和を希求し世界の人びとと協働することは、広島で生まれ育った私の使命です。

1945年8月6日8時15分、たった1発の原子爆弾が瞬間にして1つの美しい都市を破壊し、人口の3分の1に及ぶ約14万人の尊い命を奪い去りました。一人一人に夢があり、愛する人がいました。

このような非人道的な兵器が人間の安全を保障できるでしょうか。人類と共存できるでしょうか。たとえ使用しなくても保持し続ける限り、その脅威から逃れることはできないのです。しかし今日の世界には、依然として核兵器が存在しています。

焼き尽くされた廃墟を、緑あふれる平和都市へと復興させたのは、瓦礫がれきの中から這い出した市民と、我が身を顧みず国内外から支援に来てくれた人びとでした。私たち人間には力があります。協力すれば、より大きな力となります。その素晴らしい力を、おぞましい殺戮兵器を作るためではなく、人間の尊厳を守るために使いませんか。共に核兵器のない世界を目指しませんか。

とはいえ、そんなこと本当に実現すると思っているのか、とよく聞かれます。正直分かりません。しかし「できるかもしれないからやる」ことが大切だと考えています。その思いを貫くために、私は草の根レベルで自分にできることに心を注ぎ、活動し続けます。



核兵器廃絶の署名も集まった

広島県出身の二井谷さんは、高校生の時に外務省の「ユース非核特使」として、活動しました。核廃絶を求め、ヒロシマからのメッセージを国連本部で伝えたり、フォーラムに参加して「核のない世界」を推進するためのユースの役割以外に、日本政府に求める努力やアプローチについてなどの提案も行いました。

2019年8月6日には、英国ロンドンで開催されるYMCA175に広島YMCAから派遣されて、“Learning from the Past, Working Together for Our Future (過去から学び、ともに未来を創ろう)”をテーマにワークショップを行い、世界のユースと想いを分かち合いました。

(OPINION…意味は「意見・見解」など。「THE YMCA」では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。)

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。<https://www.ymcajapan.org>

6月20～6月23日、慰霊の日に合わせ、京都大学YMCAの有志で沖繩フィールドワークを行いました。

「戦後世代による記憶の継承」というテーマのもと沖繩戦の記憶をとどめる場所を訪れ、戦争非体験世代が戦争の記憶を引き継ぎ、次の世代に伝えることについて考えました。

沖繩ではガイドの方にガマや壕を案内していただいたり、ひめゆり平和祈念資料館・対馬丸記念館などの資料館を訪れたり、沖繩YMCAの知念理事長より日頃の平和教育のお話を伺ったりと、充実した時間を過ごすことができました。あらためて戦争の悲惨さを学び、平和を願う心を育む機会となりました。

今回沖繩を訪れた私たちにとっては、見聞きし感じたことを周りの人に伝えること、そして話し合うことが、平和を創り出すための第一歩です。一人一人が平和を担う主体であることを忘れてはなりません。

※沖繩フィールドワークは、全国YMCAユースチャレンジの助成プログラムです。YMCAに関わるユースによる「地域・国際レベルでの社会貢献活動」「YMCA関係者を対象とした啓発活動」に対して活動費を助成しています。



沖繩YMCAでは知念理事長の想いに耳を傾けた



第2期YMCAユース平和委員会はユース7人を含む12人で構成され、2020年2月に開催される「日中韓平和フォーラム」に向けて活動をしています。

2004年から始まったこのフォーラムは、日本、中国、韓国のYMCA間で2年ごとに開催され、今回8回目を迎えます。過去の歴史に思いをはせ、東北アジアの平和構築のために議論を重ねてきました。ユースが積極的に関わることによって3カ国の友好の懸け橋となることも期待されています。

7月6日、7日には「日中韓YMCA平和フォーラム」の実施に向けた合宿ミーティングを行いました。今回初めて顔を合わせるメンバーがほとんどでしたが、合宿を通して委員一人一人の距離が縮まり、気持ちも高まったので、これからますます楽しみにになりました。

今回の合宿ではテーマ決めを中心に話し合いましたが、それ以外にも、韓国、中国と日本の歴史理解も行い、平和フォーラムの土台を固めることができました。特にネットミーティングを通して、各国のユースが熱く平和を語り合い、共通の思いと価値観の違いを肌で感じる事ができたのはとても貴重な体験でした。

ユース平和委員会では現在も委員を募集しています。私たちの仲間となって共に平和を考えませんか。また日中韓平和フォーラムへの全国の皆さんの参加も同時にお待ちしています。詳しい内容に関しては後日お知らせします。続報をお待ちください。

第8回 日中韓YMCA平和フォーラム
日程 2020年2月21～25日
会場 国立オリンピック記念青少年総合センター



フォーラムにむけて、気持ちも高まる



YMCAキャンプ100年

うたごえびく 風の谷 ここはぼくらのキャンプ場

滋賀YMCA教育キャンプ場『風の谷キャンプ場』は、開設22年。今年度のサマープログラムでも500人のキャンパーが集まり、風の谷キャンプ場で楽しい夏を過ごしました。風の谷キャンプ場は山々に囲まれており、爽やかな風が吹き抜けます。また、山々の上流から流れてくる川がキャンプ場の中央で池になり、ジュンサイの育つ豊かな水たまりになります。キャンプ場の近くには美しく雄大な清流があり、水遊びをすることができます。ゴーグルを着けて川をのぞき込むと、流れに逆らってアユが泳ぐ姿を見ることができ、子どもたちから歓声が上がりました。



また、キャンプ場には、常にたくさんさんの生き物が集まります。「森の昆虫探検隊キャンプ」では、びっくりするほどの数のカブトムシやクワガタを捕まえて観察できました。テントサイトでは、夜はウシガエルや鹿の鳴き声が子守唄となり、朝は鳥のさえずりで目覚めます。風の谷キャンプ場での生活は自然と一体になる楽しさと大切さを教えてくれます。

『うたごえびく 風の谷 ここはぼくらのキャンプ場～みんなあつまれ松の木広場 いっぱい遊ぼうUFO広場～♪』
風の谷キャンプ場では、これからもたくさんさんのキャンパーの元気な歌声が響き続けます。

滋賀YMCA 國宗 賢太郎

Positive Net NEWS

ホスピタリティネット…互いを認め合い、高め合うことのできる、人の善意や前向きな気持ちによってつながるネットワーク

食を楽しむ 食でつながるYMCAサンホーム

食べることは生きること、そして、万人に与えられた楽しみでもあります。けれども、高齢になるとかむ・飲み込む力などの口腔機能が低下し、楽しむことを諦めてしまいがちです。食事で季節や文化を感じ、ふるさとを思い出し、食卓と一緒に囲んだ人と会話をすることでつながりが深まり、生きる力がわくこともあります。

YMCAサンホームでは高齢になっても、障がいがあっても食事を楽しんでいただくために、おいしいことはもちろんのこと、安全面や栄養面を考え、さらには食べる人の思いを知り、笑顔や会話が生まれる食事を提供できるように努めています。

口腔機能が低下した方の食事（嚥下食）は、常食と同じように、味や見た目などに配慮することで食の細い方でも食べる量が多くなる場合があります。入居者の誕生日には、大きなケーキを作り、多くの人とお祝いをします。名前入りの自分だけの特別なケーキを見て、満面の笑みを浮かべる方、涙を流して喜ばれる方もいて、その表情や笑顔に私たちも喜びと感動をもらえます。私たちは食を通して大勢の人とつながり、感動をもらえる、この環境に感謝し、これからもたくさんの人と共に食べる食のシーンをつくっていきます。



上が常食、下が嚥下(えんげ)食



お誕生日おめでとうございます

大阪YMCA 堂本 隆子